



母なる地球を230光年はなれて 探険隊はその惑星に到着した！想像を絶した 戦慄の大宇宙スペクタクル！

パナビジョン／デラックスカラー

猿の惑星

解説

フランス作家ピエール・ブールが著した小説『猿の惑星』の映画化で、テレビの脚本家として有名なロッド・サーリングが、いそしぎのマイケル・ウィルソンと共同脚色し、「七月の女」「大將軍」「ダブルマン」のフランクリン・J・シャフナーが監督した。製作者は「ドリトル先生不思議な旅」のアーサー・P・ジェーコブスである。

音楽は「砲艦サンパブロ」「墓石と決斗」のジェリー・ゴールドスミスが当り、「華麗なる激情」のレオン・シャムロイがユタ州ロケで撮影した。

出演者は「カーツーム」「ウィル・ベニ」「誇り高き戦場」のチャールトン・ヘストン、「マクベス」のモーリス・エバンス、「欲望という名の電車」のキム・ハンター、「偉大なる生涯の物語」「ラブド・ワン」のロディ・マクドウォール、「オクラホマ」のジェームス・ホイットモア、「ブレイブ48章」のリンダ・ハリソンである。

日本SF作家クラブ特選

PLANET OF THE APES

猿の惑星

THE STAFF

Producer ARTHUR P. JACOBS
 Director FRANKLIN J. SCHAFFNER
 Cinematographer LEON SHAMROY
 Written by ROD SERLING AND
 MICHAEL WILSON
 Based on a novel by PIERRE BOULLE
 Music JERRY GOLDSMITH

THE CAST

Taylor CHARLTON HESTON
 Zaius MAURICE EVANS
 Zira KIM HUNTER
 Cornelius RODDY McDOWALL
 President of Assembly JAMES WHITMORE
 Honorius JAMES DALY
 Landon ROBERT GUNNER
 Dodge JEFF BURTON
 Nova LINDA HARRISON

スタッフ

製作.....アーサー・P・ジェーコブス
 監督.....フランクリン・J・シャフナー
 脚色.....{ ロッド・サーリング
マイケル・ウィルソン
 原作.....ピエール・ブールの小説『猿の惑星』より
 音楽.....ジェリー・ゴールドスミス
 撮影監督.....レオン・シャムロイ

キャスト

テイラー.....チャールトン・ヘストン
 ザイアス.....モーリス・エバンス
 ジーラ.....キム・ハンター
 コーネリアス.....ロディ・マクドウォール
 議長.....ジェームス・ホイットモア
 オノリアス.....ジェームス・デーリー
 ランドン.....ロバート・ガナー
 ドッジ.....ジェフ・バートン
 ノバ.....リンダ・ハリソン

パナビジョン
 デラックスカラー

物語

アメリカのケーブ・ケネディから打上げられた宇宙船が、一年六ヵ月後に、オリオン星座に属するとある惑星に着陸した。だが、地球ではこの間に二千年という年月が流れた勘定になる。

宇宙船にはテイラー（チャールトン・ヘストン）を隊長とするドッジ、ランドン、スチュアート、その他の宇宙飛行士たちが乗っていた。ランドンは物理学者で、ドッジは地質学者である。

宇宙船は、湖に着水の際破損し、沈没した。生存者はテイラー、ドッジ、ランドンの三名だけであつた。岸に泳ぎついた三人は、その後、数日間にわたり砂漠越えをした後、森林地帯に入り、そこに清水のわく泉を発見した。ここで三人が水浴しているとハダカの人間たちが現われ、三人が脱ぎすててあつた服を盗んで逃げ出した。三人が彼等を追跡すると、突然、二十数頭の馬に跨がった猿が現われ、人間たちを襲撃した。猿たちは、服を着、銃を手になっていた。

やがて猿たちは、多数の人間たちを射殺し、さらに逃げまどう人間たちを網で捕獲した。このとき、そば杖をくい、喉を撃たれたテイラーも捕まった。ランドンは馬蹄にふみにじられた。網に捕えられた人間の中に女が一人いた。後にノバ（リンダ・ハリソン）と名づけられた。

この惑星では、猿が高い文化を誇る高等動物で、人間は口もきけない下等動物である。猿たちは、しばしば、こうした人間狩りを行っている。

気がつくといテラーは、ノバからの直接輸血によりゲーレンというチンパンジーの外科医に喉の手当を受けていた。傍らにジーラ博士（キム・ハンター）が控えていた。これもチンパンジーであつた。この惑星では、とくに外科医術が発達していて、人間は動物実験に使われる。この猿の惑星にも階級がある。最高はオーラン・ウータン、次はチンパンジー、最低はゴリラである。ジーラ博士や外科医のゲーレンはチンパンジーだが、ザイアス博士（モーリス・エバンス）はオーラン・ウータンである。

テイラーが檻に入れられると、ジーラ博士が、彼を見に来た。テイラーは、ジーラ博士に、自分は口がきけること、他の惑星から来た者であることを伝えようとしたが、喉を負傷しているの、口がきけない。ジーラ博士は、やがて色々なテストにより、テイラーの知能が、この惑星に住む人間より遙かにすぐれているのを知り、それをザイアス博士に報告すると、早速、ザイアス博士が確めに来たが、屈辱を感じたテイラーは再テストを受けることを拒否した。

ザイアス博士の言によれば、人間は知能の低い下等動物で、数がふえると作物を食い荒らすから、適当に数を制限しなければならぬ、というのであつた。

ジーラ博士は、テイラーとノバを一つ檻に同居させることにした。やがてノバはテイラーに愛情を示しはじめた。彼は迷惑に感じたが、次第に彼女を隣れむようになった。

ある日、ジーラ博士が婚約者のコーネリアス博士（ロディ・マクドウォール）を連れてテイラーをたずねて来たとき、テイラーは指で地面に「字が書ける」と書いたが、たまたま、そこへ様子を見に来たザイアス博士が、それを見つけ、故意に足で消してしまつた。

だが、次の機会には、テイラーは、ついにジーラ博士に字が書けることを知らせることに成功した。そこで、ジーラ博士は、彼をコーネリアス博士の許に連れて行つた。ここでテイラーは、彼が地球という他の惑星から、どうして猿の惑星へ来たかと文字によつて説明しようと試みた。ジーラ博士もコーネリアス博士も、テイラーが驚くべくすぐれた知能の持主であることを認めたが、彼が他の惑星から来たとは信じなかつた。だが、ジーラ博士は、テイラーに、彼女が他の学者たちの協力を得て猿が人間から進化したという学説を編み出そうとしていると語つた。

それから間もなく、ザイアス博士が、オクティビウス博士に、テイラーの脳葉切除と去勢手術を行えと命じた。これを聞いたテイラーは、檻から逃げ出し、博物館に隠れた。彼は、そこに人間の剥製

を発見したが、それは人間狩が行われたとき、行方不明となつた地質学者ドッジであつた。

テイラーは結局、警官に捕まり、再び檻に入れられたが、ジーラ博士のとりなしで、脳葉切除と去勢手術を受けることは一応とりやめとなつた。しかし、学術協会が開く査問会には出席しなければならなくなつた。

査問会には、ジーラとコーネリアス両博士がテイラーの弁護人として出席した。テイラーは、自分が地球という他の惑星から来た探検家に過ぎないこと、また地球では人間が知能の発達した高等動物で、猿は下等動物であると説いたが、一笑に付され、また証人として呼び出された捕われの身となつていたランドンは、脳葉切除を受けたため、記憶を失い、口もきけなくなつていた。

翌日、テイラーは、ザイアス博士に呼び出された。科学相であり、信仰の擁護者である博士は、テイラーが査問会で述べたことを正式に取り消せば、脳葉切除と去勢を免除しようと言つた。一方、査問会でテイラーを弁護したかどで逮捕されたが、保釈となつたジーラ博士とコーネリアス博士は、テイラーを逃がしてやることになつた。テイラーはノバも連れて行きたいと言つた。

ジーラ博士とコーネリアス博士は、やがてテイラーとノバを連れて、禁断地帯に入つた。そこは、コーネリアス博士が、曾て探検しそこから発掘した人骨と遺物により、数千年前の人間が、猿をしのぐ高度の知能と文化をもつていたことを知つた場所であつた。そこへ突如ザイアス博士の率いるゴリラ部隊の追手が急襲して来た。

テイラーはノバを連れて危機をのがれた。しかし母なる星、地球では血も凍りつく驚くべき事実が待つていたのである。

この物語の想像を絶した結末は
故意にふせておく事を おこと
わりいたします。
(12巻 113分)

* この映画の想像を絶した凄いラストは あなただけの秘密にしておいて下さい！

高度な鑑賞に価するSF映画 ■ 福島正実 (SFマガジン編集長)

海外のSF的な作品に接する機会は、このところかなり多くなってきたが、それらの映画の出来はといえば、必ずしも満足というわけにはいかない。SF映画につきものだった、子供っぽい物珍らしさや、安手なセンセーショナルリズムや、「どうせ空想だから」という理由でこの種の映画にだけ通用する無責任きわまるご都合主義——要するに、レベルのひくい大衆的興味にいつもお手軽に迎合したがる制作態度が、依然として多いからである。

かくて、SF的発想の映画は、おしなべてジャリもの、きわもの扱いにされ、結果としては、本来ならばSFファンを含めたかなり高度な観客層の鑑賞に耐えるはずのものが、およそ腹立たしい愚作の連続ということになる。

良いSFが映画化される、という話を聞くと、期待よりはむしろ警戒心が先に立つわれわれの習癖は、

このへんの事情から理解してもらわなければならない。期待して裏切られるより、最初から軽蔑していたほうが、実際感ずる失望が少なくすむし、きわめて少ない例外の場合は、楽しみも倍増するというものだからである。

この作品の場合も、そうした例外の一つであつた。ビエール・プールのこの原作は、4年まえに書かれたものだが、その後イギリス、アメリカで相ついで出版され、その好評ぶりは映画化の噂とともにわが国にも伝っていた。

プールは、わが国では「戦場にかける橋」(1952年サント・ブーヴ賞受賞)の原作者として知られていだろうが、もともと、SF的発想の作品も多いひとで、フランス風なエスプリと警句まじりのユーモアにあふれた短篇集「E=mc²」や米ソの月一番乗り競争のパロディと見られる「月の庭園」などはわが国

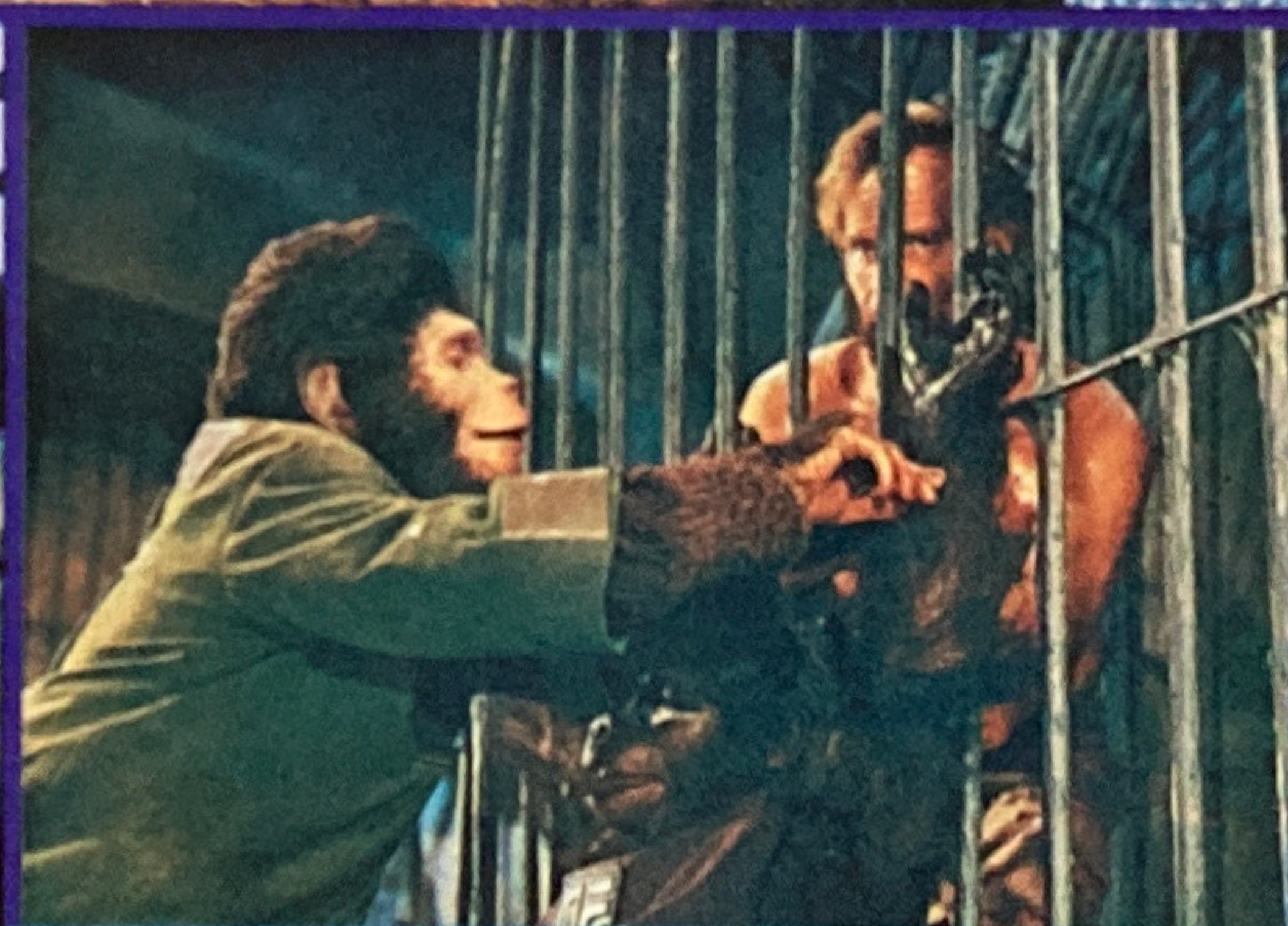
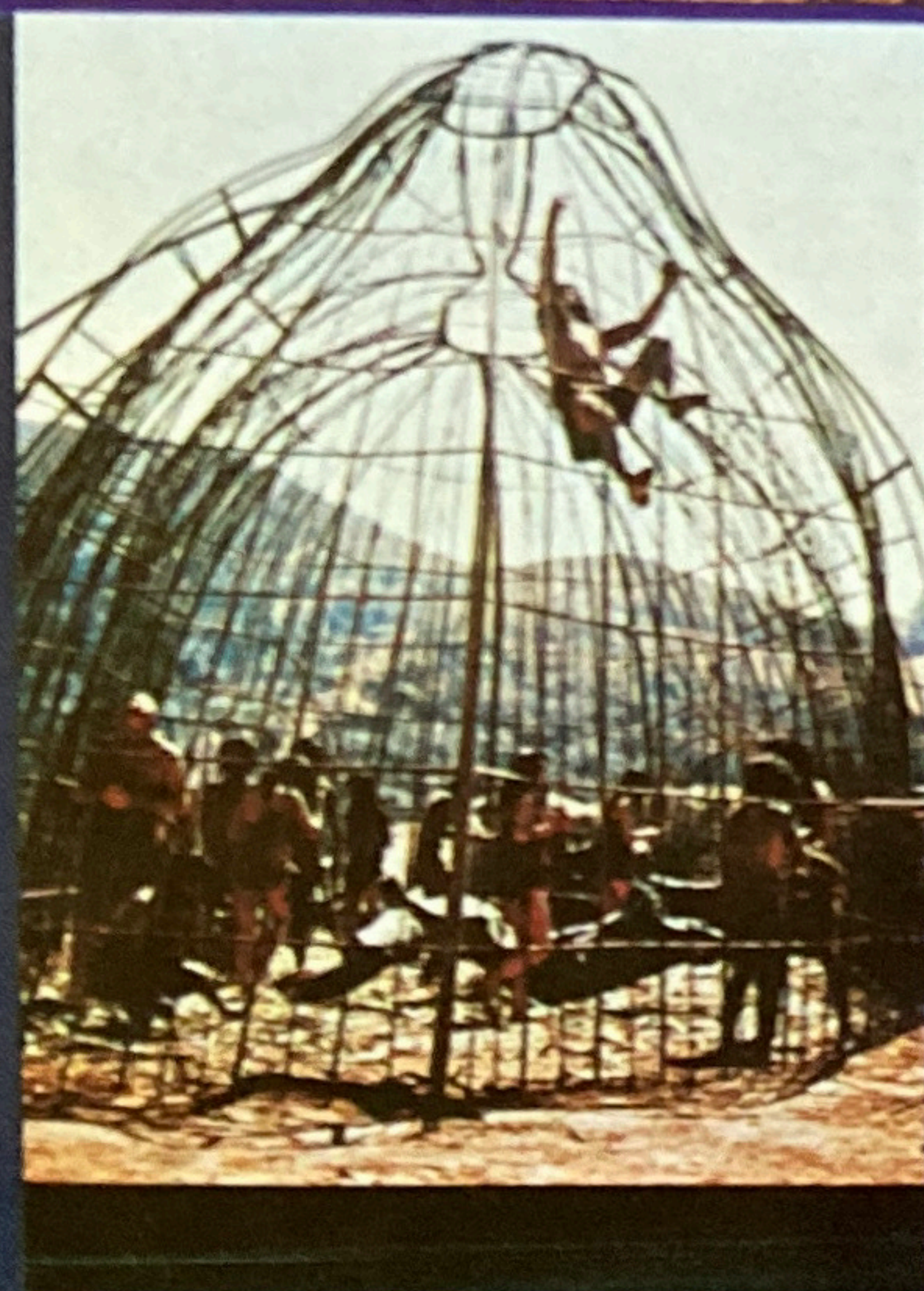
にもすでに紹介されていた。

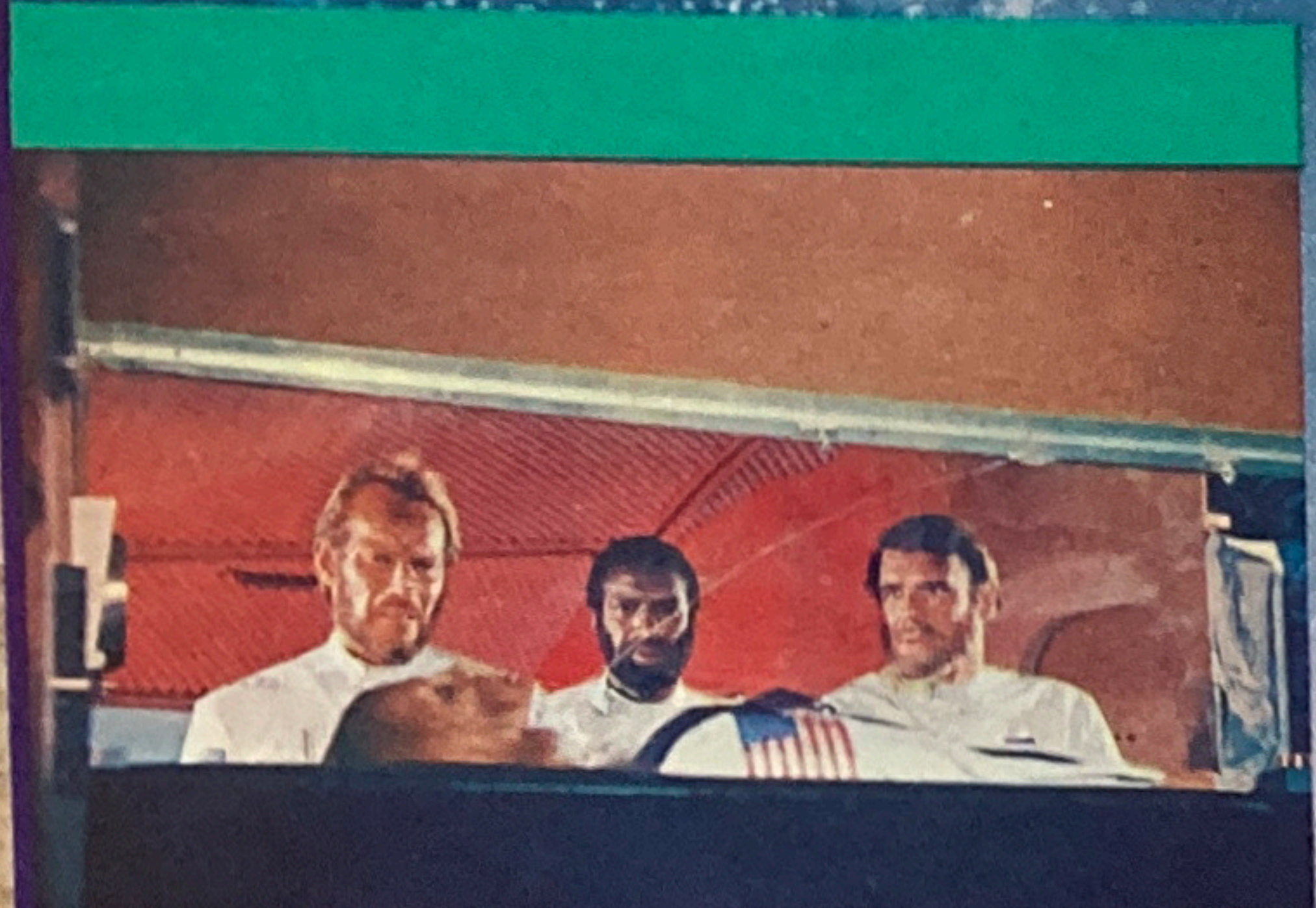
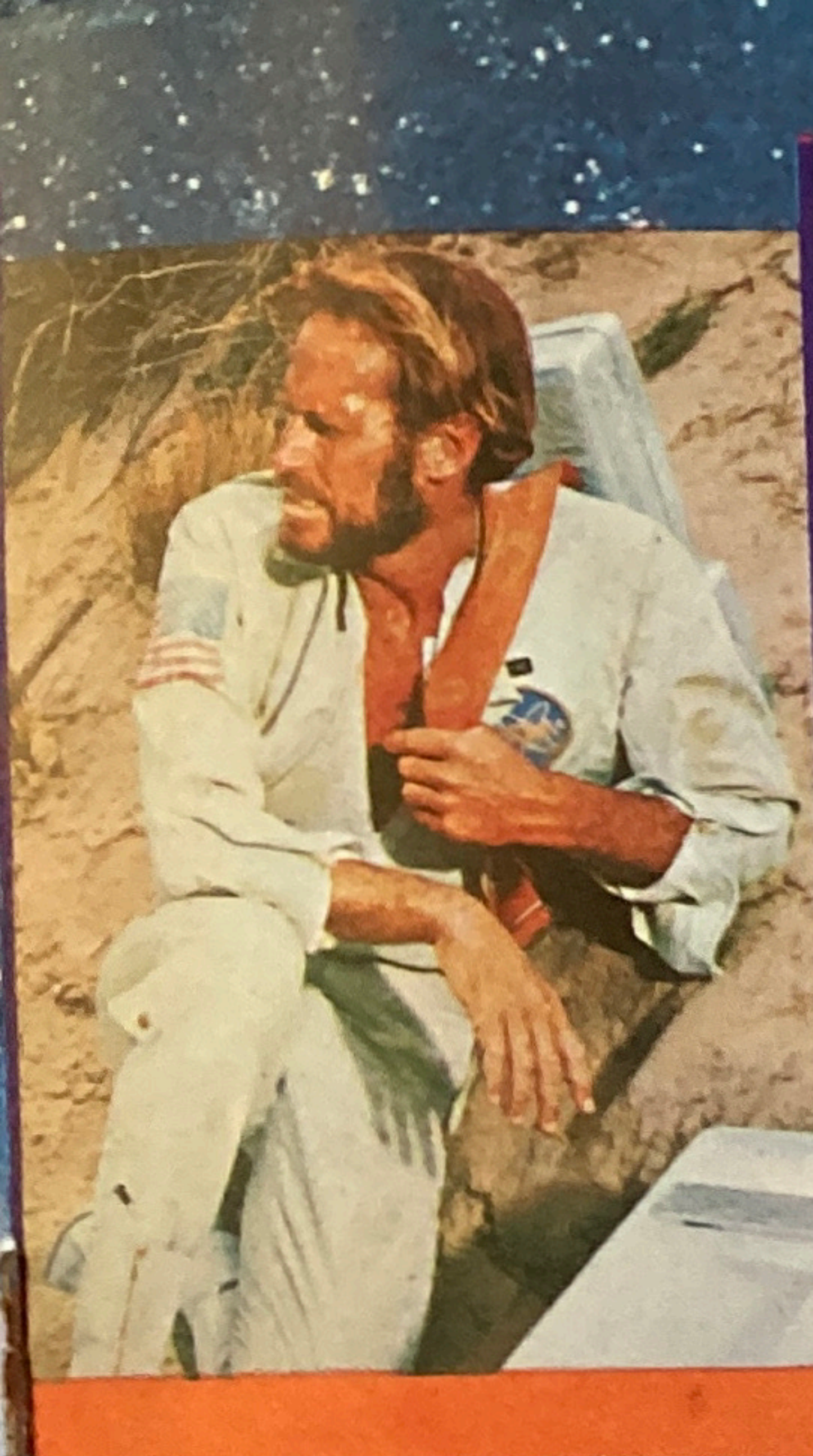
この映画の原作「猿の惑星」も、この系統に属する一種の寓話風SFと見てよく、人間と猿を逆の立場に置いてみたときそこに現われる人間や人類文化の正体を、プール一流の皮肉なタッチで描いている。

小説と映画とは、そのメディアとしての性質上、それぞれちがう世界を構成するものだが、この映画には、画像メディアを通じて一層明確に表現できるものがでていたと思う。たとえば、活字を通じてイメージ化される猿と、映画の画面で、精巧に再現された動く猿とでは、受ける印象の度合いも質もちがってくるように思ったのだが、あなたはどうかろう？



PLANET OF THE APES





＊《猿の惑星》に寄せられた讃辞！

スウィフト流の諷刺精神と豊かなイマジネーションが渾然と融合した力作である。

—アスランティック—

じつに戦慄的な作品——驚くべき結末がなおいっそう全体を際立たせている。

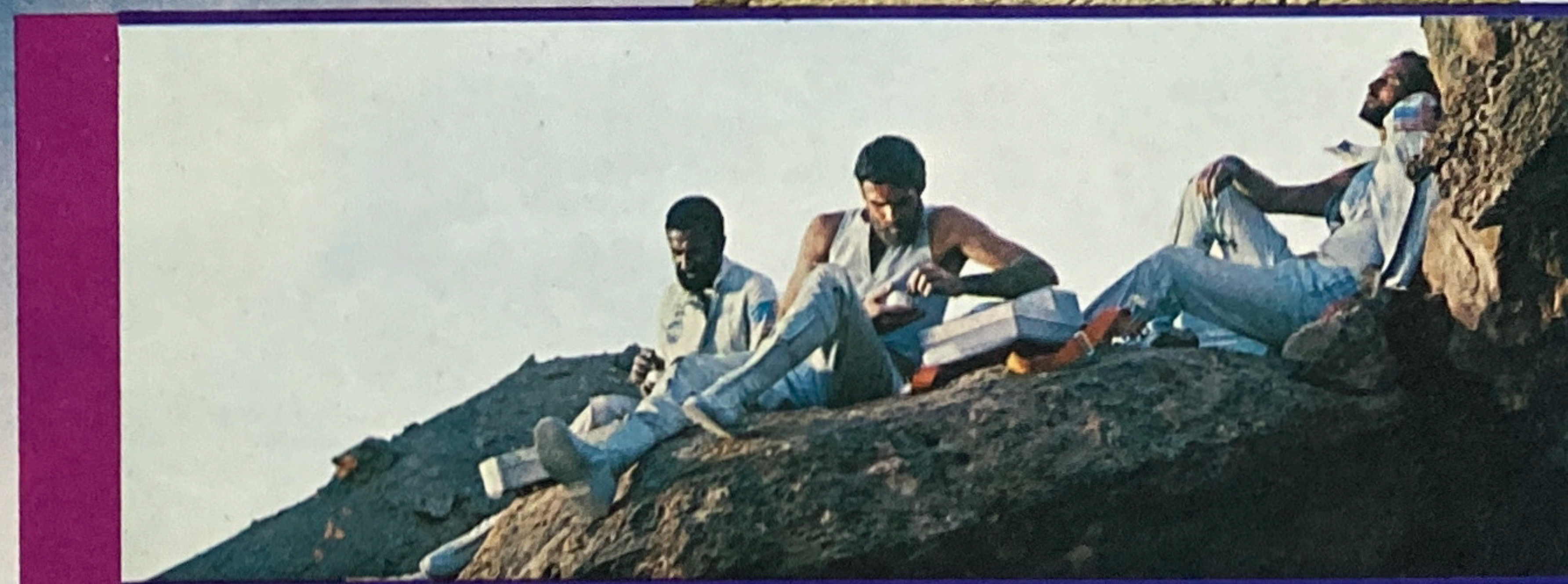
—サンデー・タイムズ—

作者は既存社会の愚劣さ人間の野望の虚しさを痛烈な揶揄をこめて解剖して見せた。

—ニューヨーク・ニュース—

怪奇と独創的なアイデアに満ちた作品——「戦場にかける橋」をはるかにしのぐ！

—ニューヨーク・ワールド・テレグラフ&サン—



＊原作者ピエール・ブールのこと

ピエール・ブールは一九二二年フランスのアヴィニオンに生れた。初めエンジニアとして立とうとしていたが一九三六年コム栽培者としてマラヤに渡った。一九三九年第二次大戦が勃発すると、インドシナのフランス軍に召集された。フランスの降伏とともにすぐマラヤに戻り、シンガポールの自由フランス派遣軍に身を投じた。一九四三年ヴィシー政権下のフランス軍に捕えられたが、翌一九四四年脱走に成功した。戦後はふたたびマラヤに戻り、現在バリに住んでいる。一九五四年に発表され、多大な反響を呼んだ「戦場にかける橋」は著者の戦時中の経験に基づいて書かれたもの。サント・ブーヴ賞を受けたこの作品は、後に映画化されたアカデミー賞を得た。その他の主な著作には「E.M.C」や「カナシマ博士の月の庭園」などがある。

＊製作ノート

●この映画の主人公？とも云うべき猿のメーキャップでは、名手ジョン・チェンバースをチーフとする100名にも及ぶメーキャップのエキスパートが選出された。もちろん、ハリウッド中の人間をかきあつてもそれだけの名手が集まるはずはなく、当然、一般の美容界からもビック・アップされた。

●メーキャップは完了までに四時間以上かかり、素顔に戻るまでには約一時間かかった。そのため、俳優たちは朝四時に出勤しなければならず、悲鳴をあげ、たゞヘストンとリンダ・ハリソンだけがその難？を逃れた。

●写真でご覧の通り、素肌の上に厚くラバーをかぶせるため唇の厚さなどは三倍以上に厚くなり、タバコを吸うにも特殊なホルダーを使用せねばならなかった。食事と同然で、キム・ハンターなどは鏡を見ながらでないと食事を摂る事は出来なかった。

●俳優たちの青や緑の瞳の色を、ダーク・ブラウンに統一するために、おびただしい数のコンタクト・レンズが買い占められ、このためにレンズの市価が一時、急騰するというバカな騒動すら起った。

●メーキャップの材料は、フォーム・ラバーの特殊なもので、微細な気孔があり皮フの呼吸を妨げないし、また適度な柔軟性があり、猿人間の表情の変化も微妙なら、皮フ感もきわめてリアルで薄気味悪いほどである。

＊この映画の面白さ

怪獣ブームの次に来るものは《宇宙ブーム》であろうと言われていて、最近のTVや雑誌を見ると、まさしくその通りになって来ました。

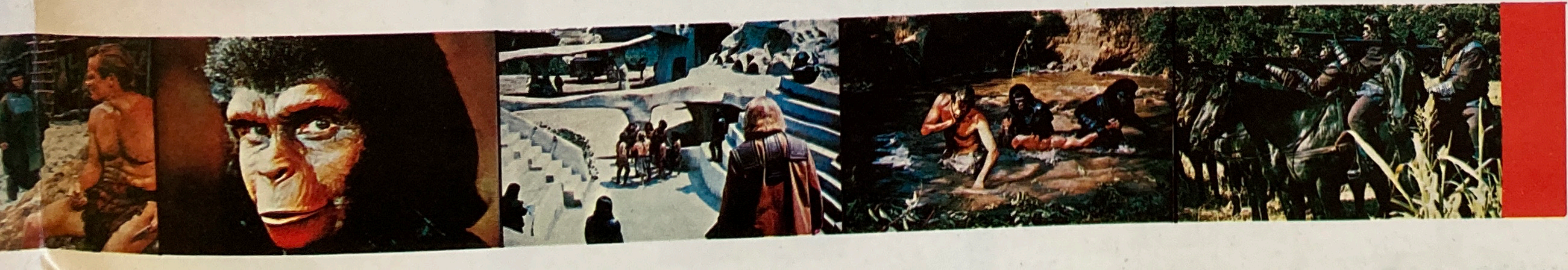
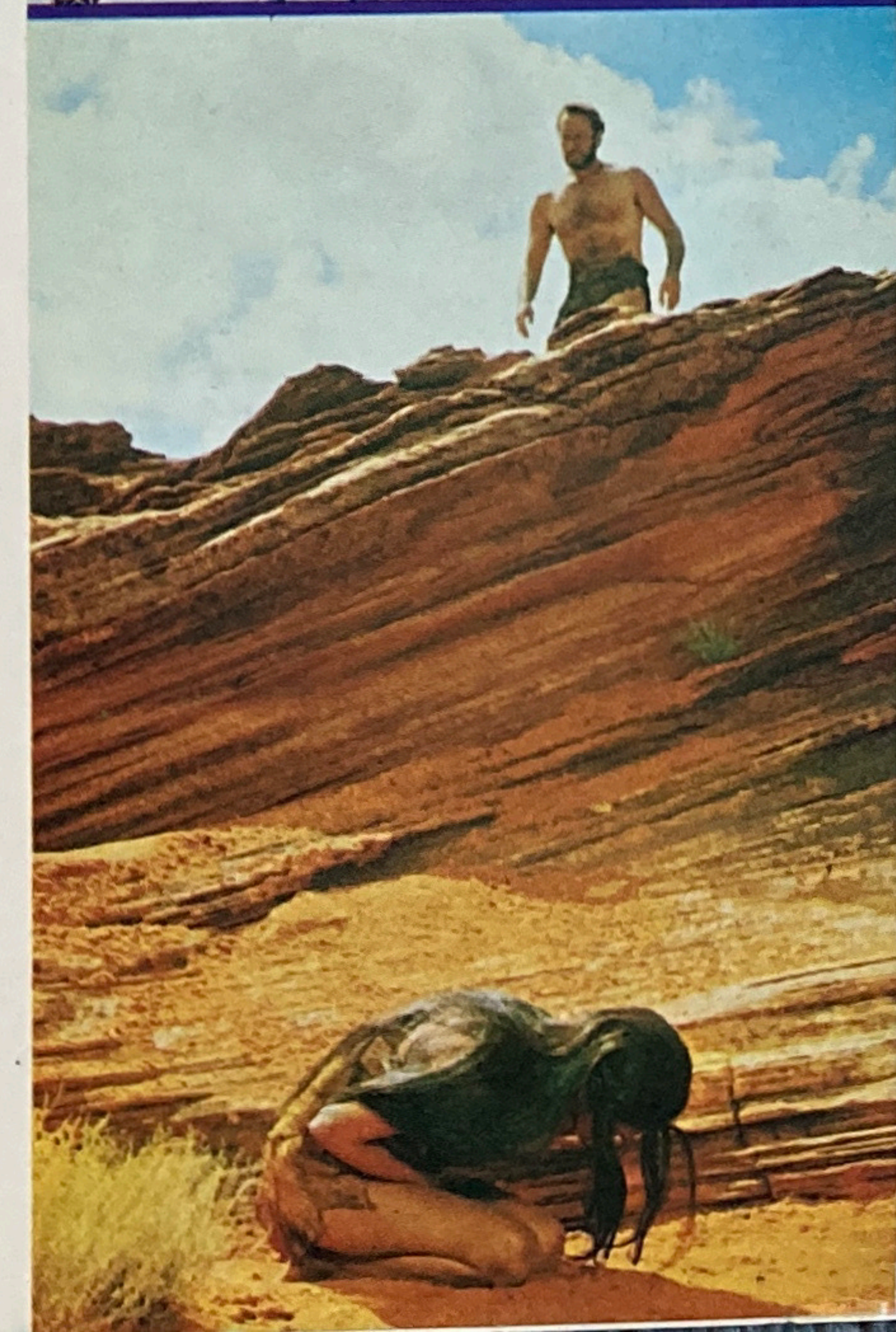
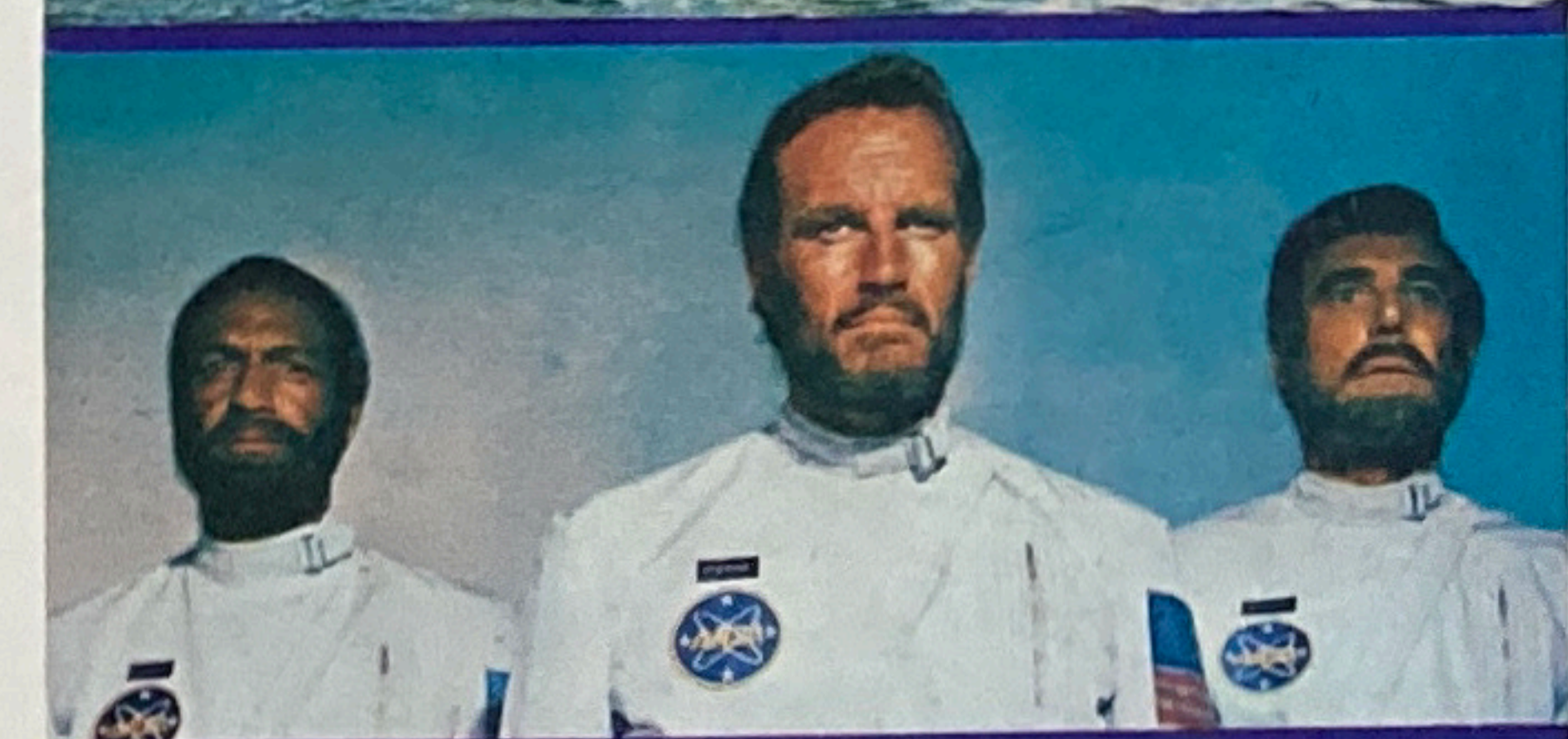
先に『ミクロの決死圏』という傑作SF映画を放ったFOX映画が、その自信と実績をもって《宇宙ブーム》の先鞭をつける超大作を創りあげたのが『猿の惑星』です。

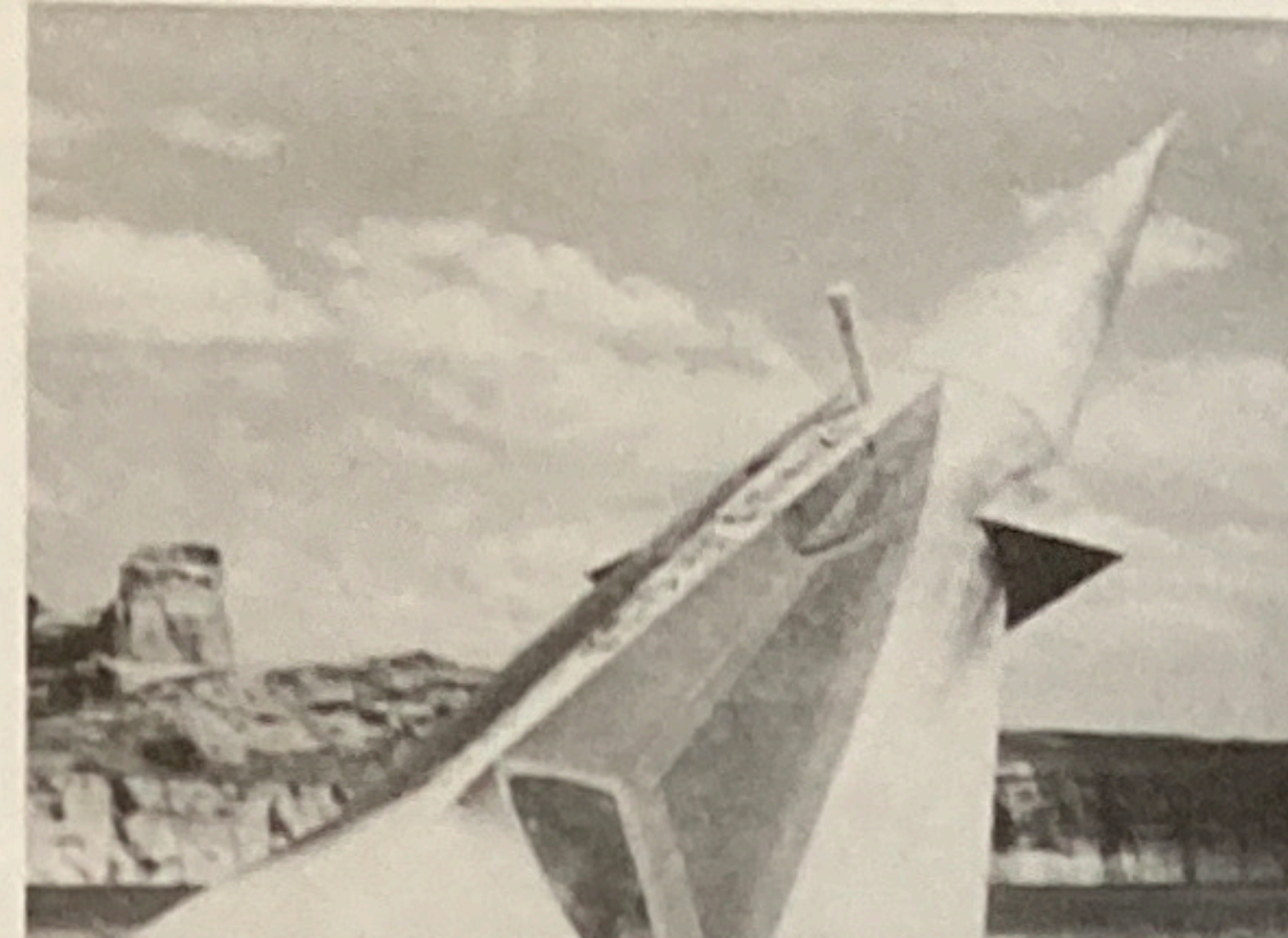
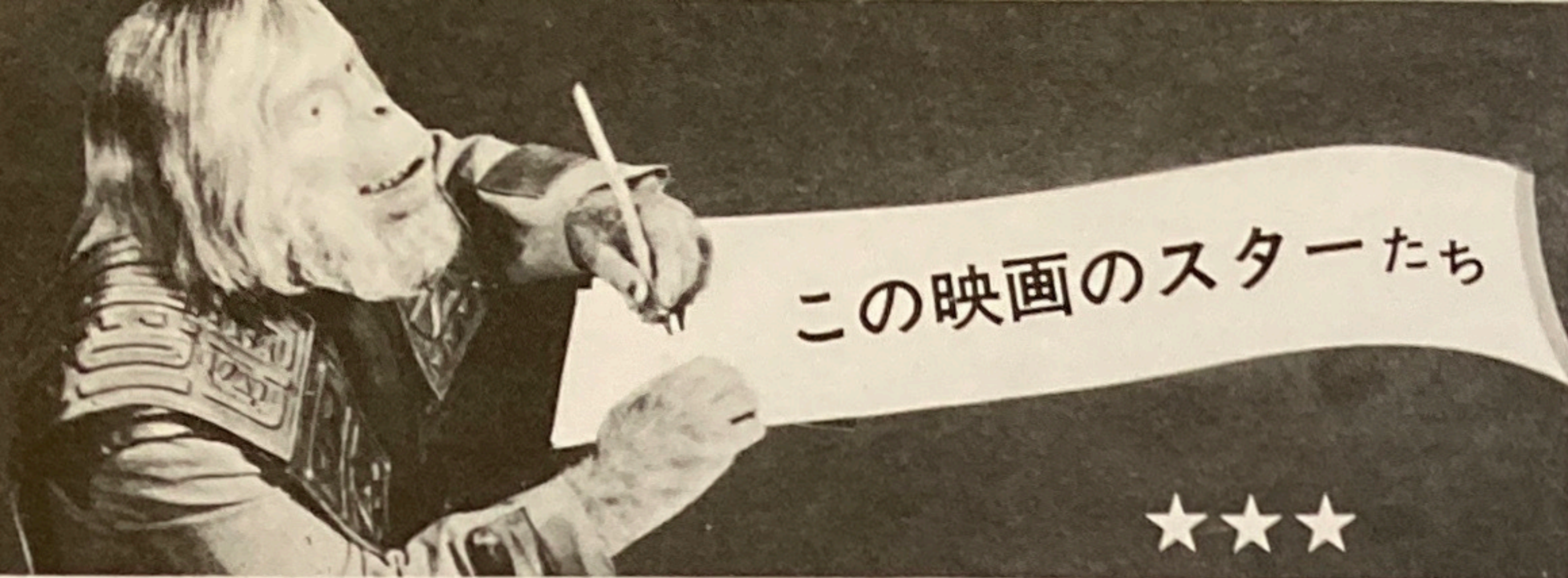
この銀河系には約1000億個の恒星(太陽)があるといわれ、それから考えて地球のように高等生物が住んでいる惑星は、約20億個ぐらいあると思われています。宇宙人なんているのか！と言う人は、ここでもう少し考え直してみませんか？

また、これら地球型惑星に住む高等知性的物の姿は、そのあらゆる要素を考えても、ほゞ人間に似た形態を有するはずだと学者たちは言明しています。この映画の《猿人間》が顔はともかく、姿や動きが人間とほとんど同じなのはこのように大変リアルな考え方なのです。想像を絶した事は想像できない、などとヘソをまげないで《猿人間》の着想が決してインチキでない点を、お見逃しなきように。

チャールトン・ヘストンのようにスーパー・スターがSF映画に出演するというのは、今まで考えられなかった事です。この大成功を機会にSF映画は一級作品仲間入りをとげた、といってもいいでしょう。

《お願い》この映画のラスト・シーンの凄じ意外性はさすが映画ズレしたあなたも仰天するに違いありませんが、どうか誰にも話さないでおいて下さい。誰もがあなたと同じスリリングな快感を味わうために！





CHARLTON HESTON

チャールトン・ヘストン

圧倒的な男性的風貌とますます堅実な演技力で、今やハリウッドはおろか世界的男優のトップランクに位するスターである。

これは彼がはじめて出演するSF映画であり、それは同時にSF映画が単なるプログラム・ピクチュアだった時代を抜け出した事を意味する。

24年10月イリノイ州生れ。ノースウェスタン大学卒業後、ブロードウェイの舞台に立ちTVにも出演するようになった。50年映画にデビュー、59年の「ベン・ハー」ではアカデミー主演男優賞を獲得、その後着実に歩みを進め現在に至る。

舞台女優リディア・クラークと結婚して2児があり、模範的優良家庭人として評判が高い。

(瞳) ブルー (髪) ブラウン。

日本にも再三にわたって来た事があり、その度にその人柄の立派さで好印象を残しており大変な親日家である。

(主な作品)

地上最大のショー。真紅の女。十戒。⑤⑧大いなる西部。大海賊。⑤⑨ベン・ハー。⑥①エル・シド。⑥②ローマを占領した鳩。⑥③北京の55日。⑥④偉大な生涯の物語。⑥⑤華麗なる激情。⑥⑥カーツーム。⑥⑦誇り高き戦場。ウィル・ペニー。⑥⑧猿の惑星。



MAURICE EVANS

モーリス・エバンス

オーランウータンのサイアス博士にふんする。

1901年6月、イギリスのドーチェスターに生れた。26年から舞台に立ち、後にオールド・ビックの立役者となり、シェークスピア劇で名をなした。35年にブロードウェイに進出、「ロミオとジュリエット」に出演して大評判となった。

また舞台劇「八月十五夜の茶屋」で名演出家としての手腕を示した。

映画・舞台にまたがって俳優で演出家でもあり、舞台、テレビのプロデュースもする。

最近テレビにも出演している。

主作品「マクベス」、「大將軍」。



KIM HUNTER

キム・ハンター

チンパンジーのジーラ博士にふんする。

1922年10月、ミシガン州デトロイト生れ。パサデナ・プレイハウスでヒット劇「毒薬と老嬢」に出演して故デビッド・O・セルズニックに認められ、43年映画THE SEVENTH VICTIMにデビュー。51年に「欲望という名の電車」でアカデミー助演女優賞を獲得した。最近では映画よりも舞台やテレビに多く出演している。

身長 162センチ、体重52キロ。髪はブラウン、眼はグリーン・ブルー。51年、ロバート・エメットと結婚。現在ニューヨークに住んでいる。

主作品「天国への階段」、「欲望という名の電車」



RODY McDOWALL

ロディ・マクドウォール

いつもニューロディックな役柄が多くて陰性な感じの青年に見えるが、私生活ではリズ・テイラーとも深い親交がある好青年であり、道楽としてカメラの腕前はプロはだしだと言われている。「クレオパトラ」の撮影あい間にとったリズのスチール展は、アメリカでも大評判をとったほど。

28年9月ロンドンに生る。8才の時、イギリス映画にデビューした。アメリカ映画には40年MAN HUNTが初出演。少女時代のリズとも「家路」「ドーヴァーの白い崖」で共演している。青年期には映画出演のチャンスがなく演劇に精進した。53年にはバーナード・ショウの芝居でブロードウェイの舞台をふみ55年ストラトフォードのシェクスピア祭でも好評を拍した。

(主な作品) ⑥②クレオパトラ。⑥④偉大な生涯の物語。ラブド・ワン。⑥⑤シャム猫FBI。⑥⑥ザ・スパイ。太陽の恋人。クール・ワンズ。





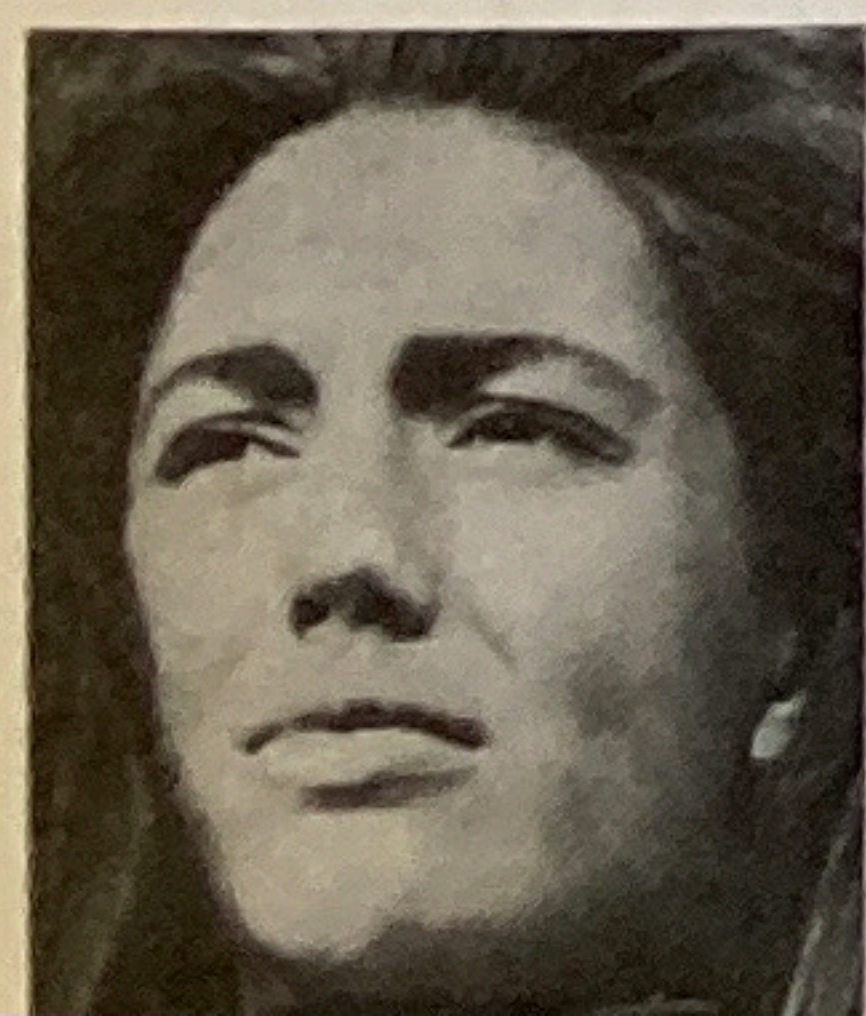
*驚異的な猿人間のメーキャップ!
その精巧さは現代の奇跡だ!

LINDA HARRISON リンダ・ハリソン (新星)

メリーランド州バーリンに生れた。スチーブン・デカター・ハイスクールを卒業後、ビューティ・コンテストで「ミス・メリーランド」に選ばれ、65年「ミス・ユニバース」候補コンテストで第二位となった。モデルを振出しに、「ペイトン・プレイス」、「バットマン」等テレビに出演し、やがてフォックスと七年契約を結び、「ジェリー・ルイスの月世界宙がえり」でお目見えした。

身長 170センチ、体重54キロ。髪、眼ともにブラウン。92-57-92のグラマーである。

作品「ジェリー・ルイスの月世界宙がえり」「おしゃれスパイ危機連発」。



フランクリン J・シャフナー監督

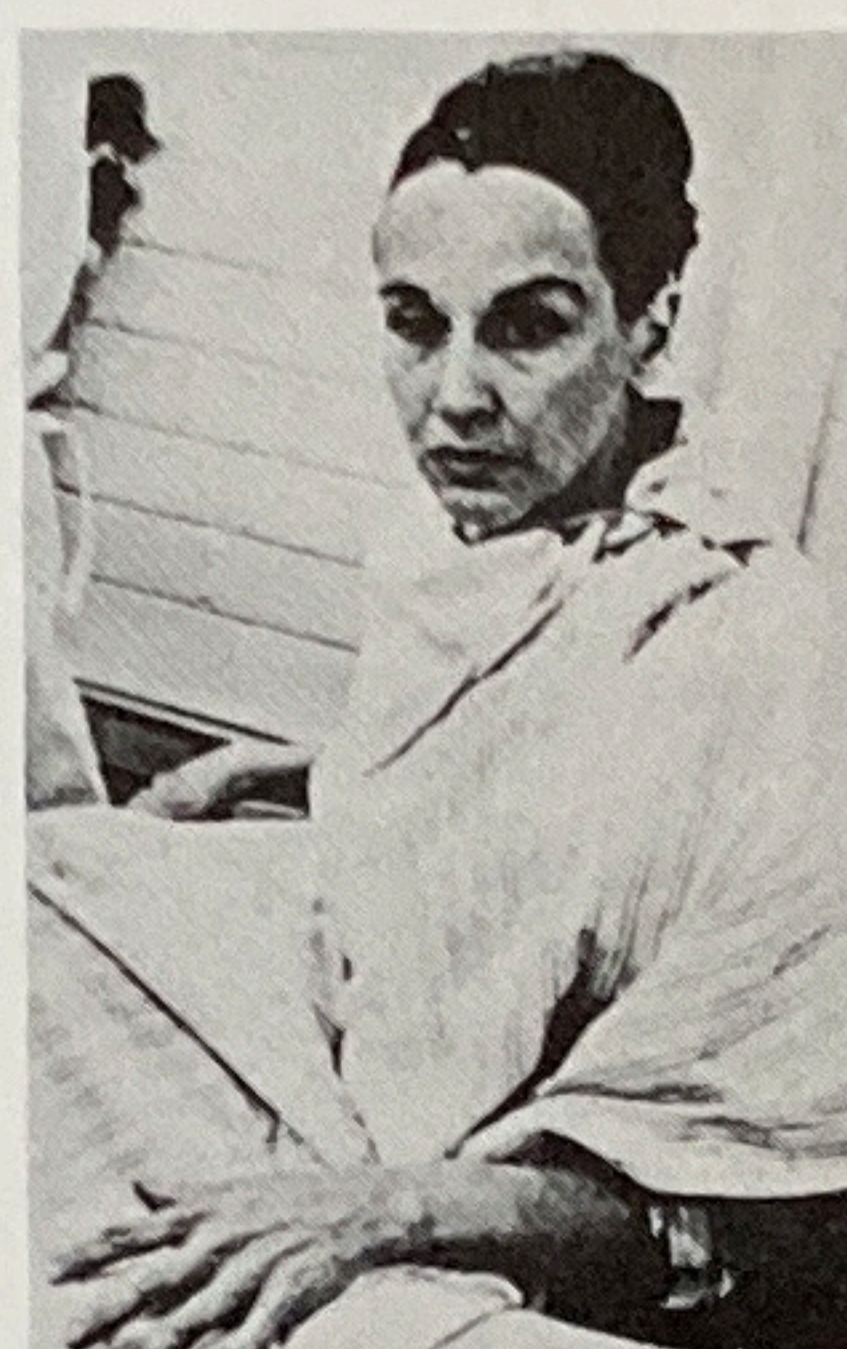
TV出身のニューヨーク派の鬼才として注目の的である彼が、はじめて手を染めた宇宙S・Fものであるだけに、この大成功は彼の今後に大いなる影響を及すだろうと言われている。

1920年5月、東京生れ。父親は宣教師であった。ペンシルバニアで成人しフランクリンとマーシャル大学で政治を専攻。

大戦中、海軍に入り、戦後TV界に入り演出を担当するようになった。45年、55年の2回にわたってTVのアカデミー賞とも云うべきエミー賞を獲得、TV演出家としては第一人者と目されるようになった。

舞台では「助言と同意」のプロデューサーをつとめた事がある。61年に映画界に入った。(主な作品) プレイ・ハウス90。弁護士プレストン (以上TV) 七月の女。大將軍。ダブルマン。

FRANKLIN SCHAFFNER



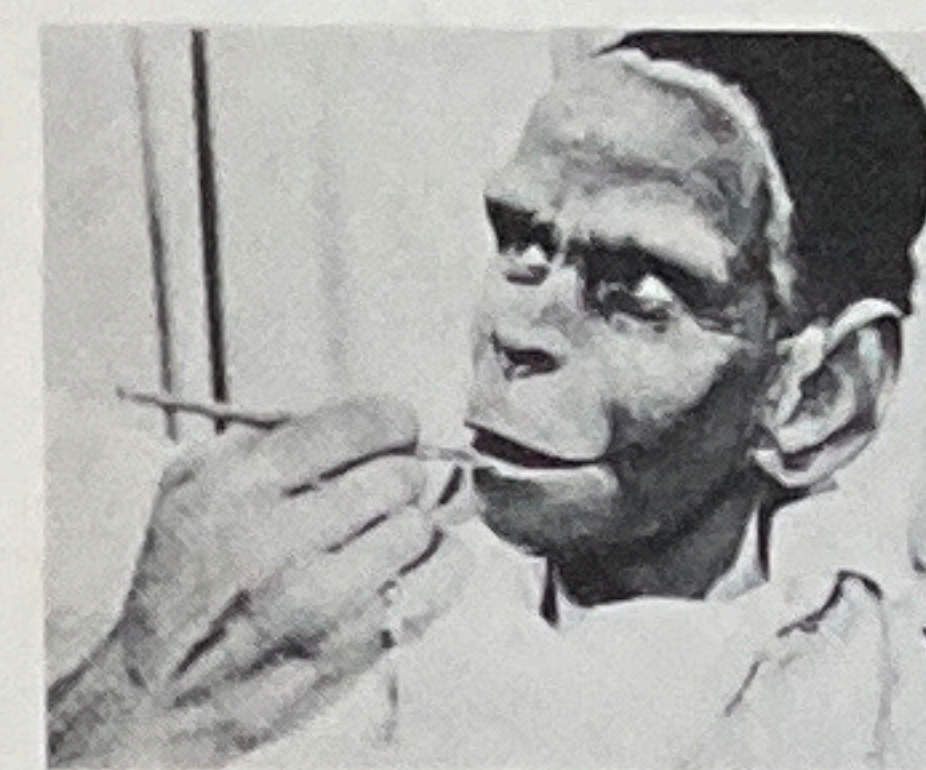
①(キム・ハンター)アカデミー賞女優も緊張の時



② 特殊なフォーム・ラバーで下ごしらえ



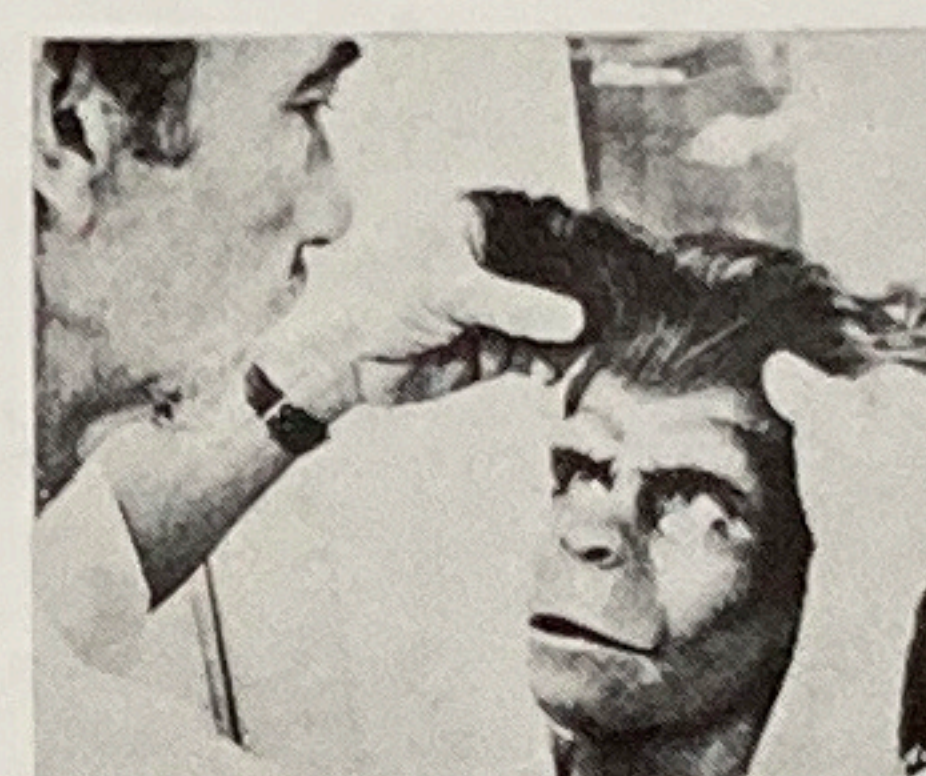
③ 別に作られた耳がとりつけられる



④ 地肌とラバーの境をメーキャップ用の筆で



⑤ 唇をぬってチンパンジー族の出来上り



⑥ 精巧なカツラハエギワは特に念入りに

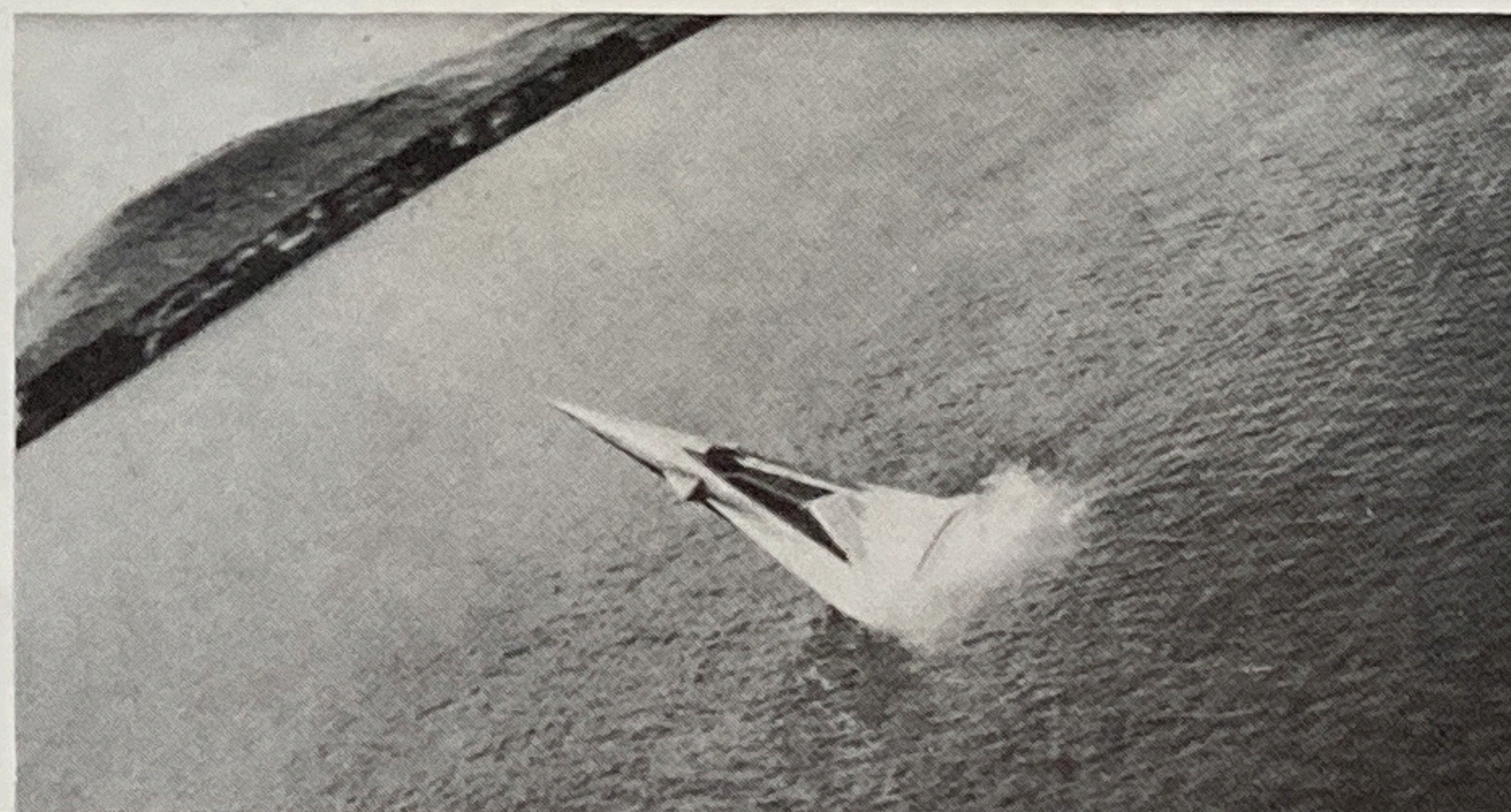


⑦ カツラは幾つかの部分に分れている

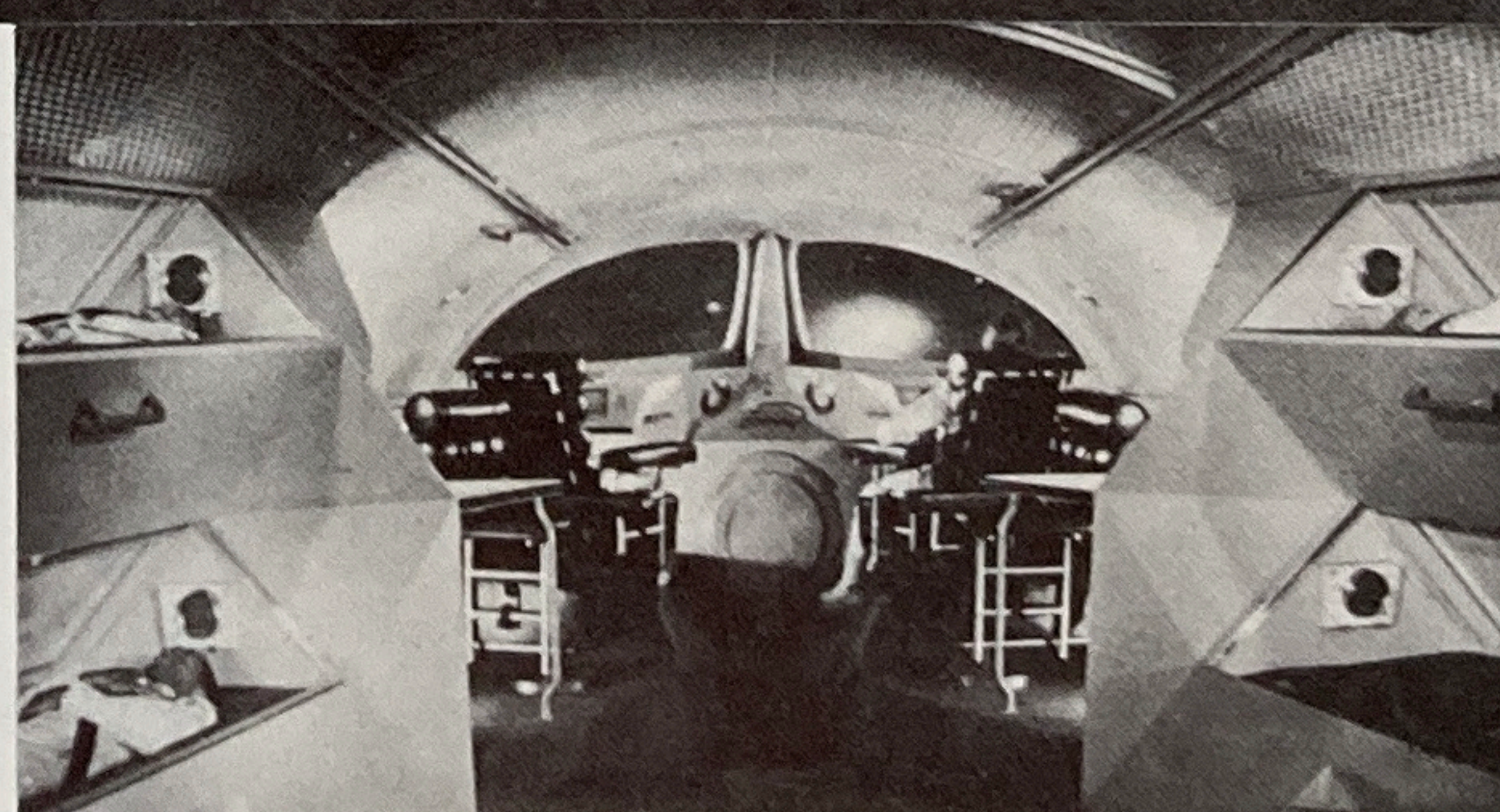
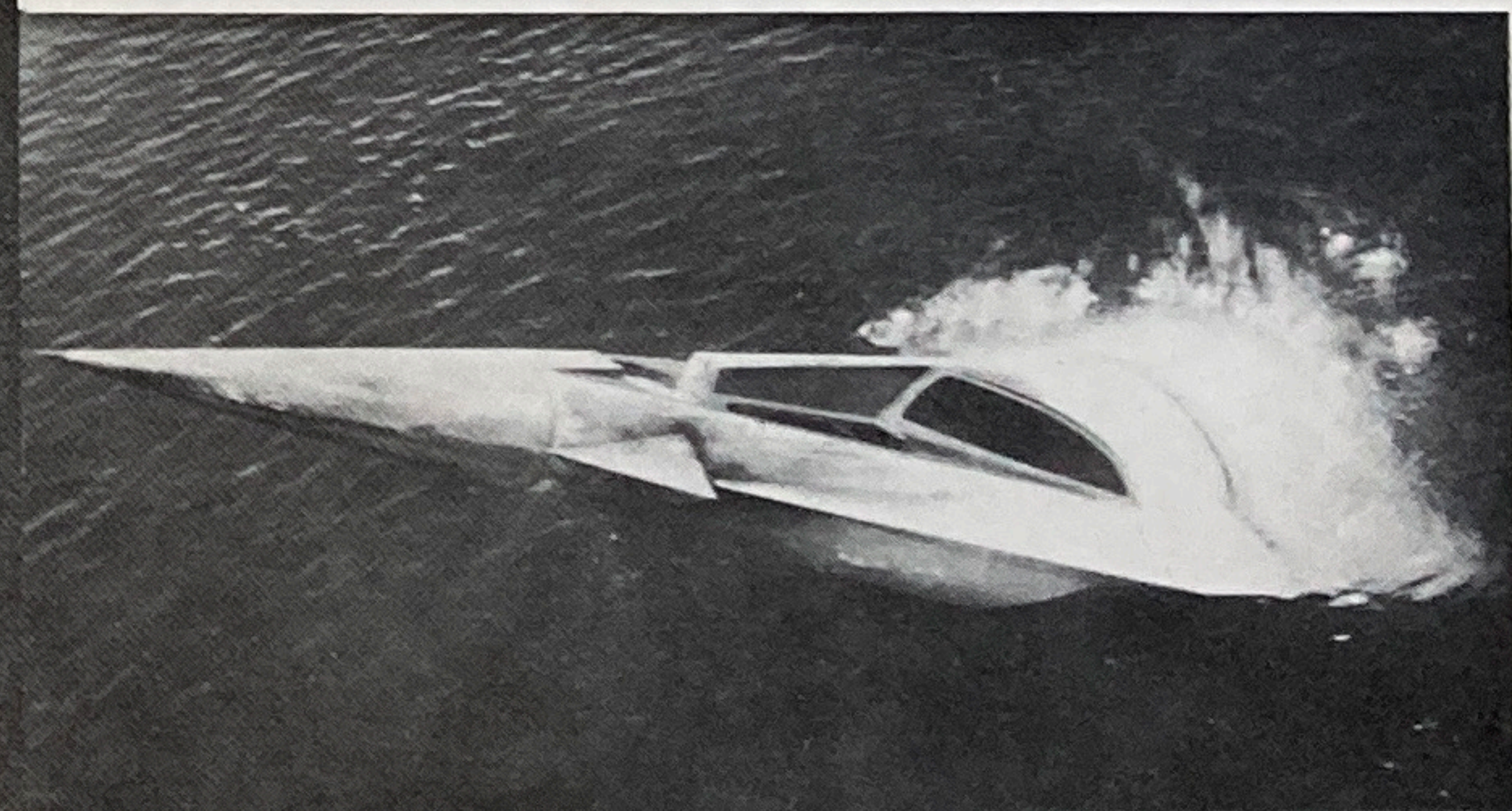


⑧ 顔の色に合わせハエギワをぬりつぶす

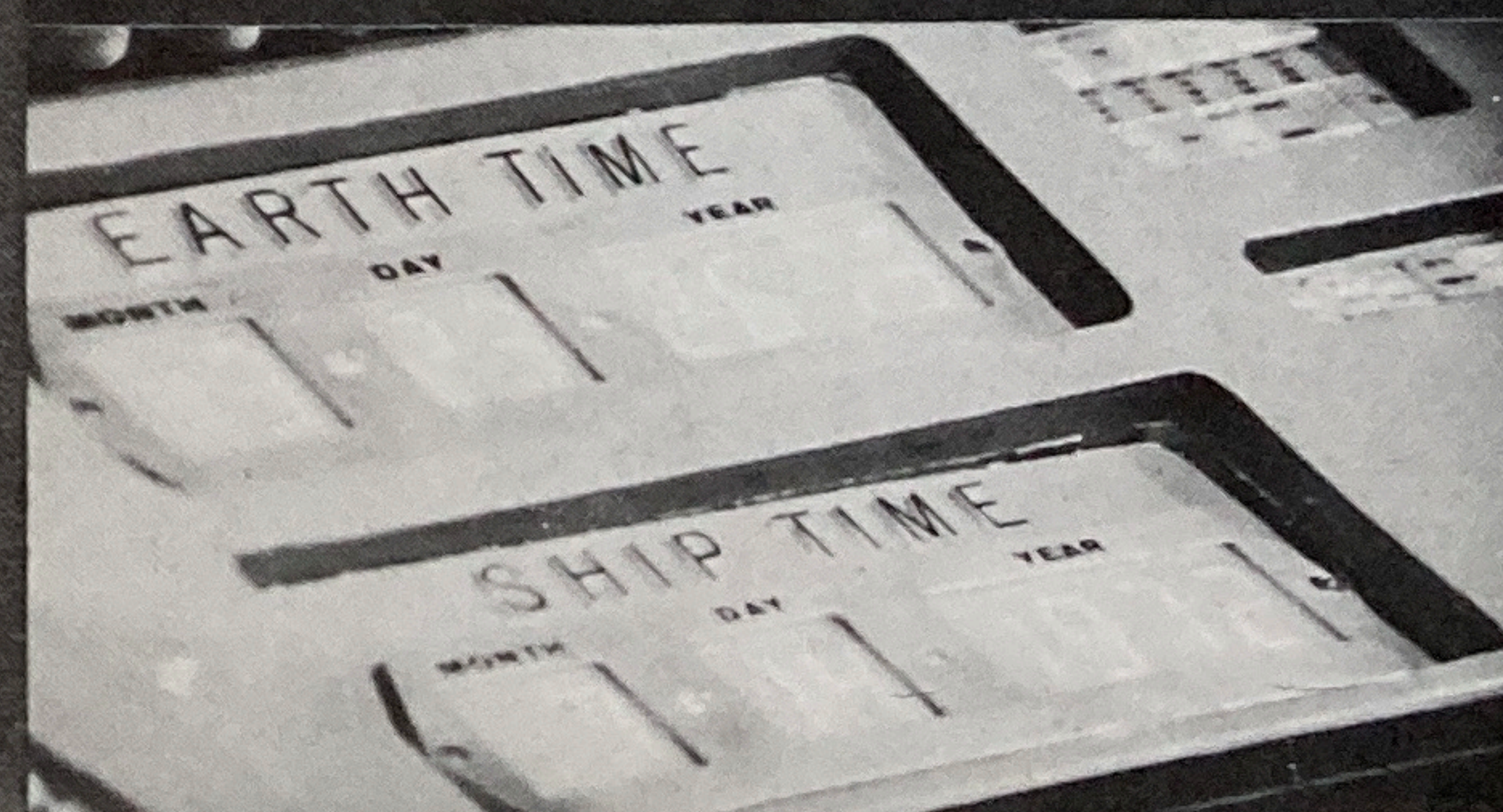
● ケープ・ケネディから飛びたった宇宙船はオリオン星座のある惑星に到着した



● その惑星は地球とほとんど同じ大気と水を持っていた そして…!



● 宇宙船の内部 前方の操縦席と後方左右に四つの塔乗員用カプセルがある



● パネルに電光掲示される地球時間と宇宙時間 すでに700年の差が…!

PLANET OF THE APES

チャールトン・ヘストン

ロディー・マクドウォール／リンダ・ハリソン／キム・ハンター

製作アーサー・P・ジェーコブス／監督フランクリン・J・シャフナー

原作ビエール・ブールの小説「猿の惑星」より
《早川書房刊》

日本SF作家クラブ特選

